

VANACORE NAPOLI

ラグジュアリーを追求するナポリの新星

“ヴァナコアレ”という
卓越したエレガンス

生まれながらのエレガンスを纏ったナポリのヌンツィアータ兄弟。
彼らが生み出す「ヴァナコアレ」のシャツは、
ふたりのエレガンスそのままに、
どこまでも上質でラグジュアリーだ。

RAKISH
STYLE
SPECIAL

04

着たい服には
理由がある

Salvatore Nunziata
Luigi Nunziata

サルヴァトーレ・ヌンツィアータ (右)
ルイージ・ヌンツィアータ (左)

兄ルイージは19??年、弟サルヴァトーレは1994年、ナポリ郊外オッタヴィアーノ生まれ。ファミリービジネスはクルマ関連。超貴重なヴィンテージカーだけでも97台ものコレクションを所有している。メンズのクラシックスタイルへの情熱から、2013年に「ヴァナコアレ」の経営陣に加わり、2018年から完全オーナーに。サルヴァトーレが指揮を執り、彼らのエレガンスそのままの、最高品質のシャツを手掛け

ている。





上：少数精鋭の工房。それぞれの仕事のクオリティは非常に高い。左上：ミシステッチの完璧な美しさは特筆すべき点。シャツの手縫いは9工程で取り入れている。余談だが、ネイルは美しいナポリカラー。セリエAでナポリが33年ぶりにスクデットを獲ったことで、町も人々の服装も、ナポリカラーで溢れていた。右下：公式オンラインショップに並ぶサファリジャケットは今や主力モデルに成長した。素材はいずれもカシミア90%、ビキューナ10%。€1500。

実直な手仕事、ラグジュアリー素材に徹底してこだわる

朝の9時にナポリのマルティーリ広場まで迎えに来てくれた初対面のサルヴァトーレ・ヌンツィアータとは、自己紹介がてらのナポリ話に花を咲かせた。「君の血は半分ナポリターノだね!」と冗談めかし、ピーノ・ダニエーレの“Napule È”をかけてくれた。僕は思わず口ずさんだ。

毎度のことだが、ナポリ人とは、お気に入りのレストランやピッツェリア、ワインやカフェの話から始まって、もちろんサルトリアについてもたっぷり語り合うのだが、そこから映画や音楽の話になると、パオロ・ソレンティーノやピーノ・ダニエーレを熱く語って盛り上がるのが常だ。特にピーノ・ダニエーレはディエゴ・マラドーナ同様、全ナポリ人のハートの中で生き続けている、誰もに愛されている存在である。ピーノ・ダニエーレへの愛を語ってナポリ人の

“懐”に入れば、取材は打ち解け、より楽しくなる。

向かっている先は、ナポリの隣町ポルティチだ。ブルボン家が統治していた1738年にポルティチ王宮の建設が始まったのを機にナポリの王侯貴族たちのヴィッラが次々と建ち並び、高貴な避暑地として栄華を極めた歴史をもつ。1839年、ヨーロッパで初めての鉄道が開通したのもポルティチだった。優雅なヴィッラの姿は今なお健在で、絶好のロケーションを誇る洗練されたレストランもあって、往時の繁栄を偲ばせる。

この町で生まれ育ったサルヴァトーレ・ヌンツィアータは、16歳でチェーサレ・アットリーニの服に袖を通し、そこからサルトリア仕立ての世界にのめり込んでいった。ジャンニ・ヴォルペら知る日ぞ知る凄腕の

サルトもお気に入りだが、最近はエティケッタすらつかない85歳のローカル老サルトを鼻屑にしているという。ポルティチが栄華を誇った時代、王侯貴族の服を仕立てるためにたくさんの仕立て職人がこの街に移り住み、仕立て文化が発展していった歴史があり、ポルティチや隣町のサンジョルジオ・ア・クレマートには、今も多くの仕立て職人が住んでいる。そして、サルヴァトーレが0年前に経営権を取得した「ヴァナコーレ」も、そんなポルティチの歴史的背景のもとに生まれたシャツブランドである。

「私たちがこの会社のオーナーとなる以前、ヴァナコーレはクラシックなドレスシャツのみを手掛けている会社でした。ただ、今日ではよりスポーティなものが求められるようになっています。私自身も好んでス



左上：右ページのサファリジャケットを裁断しているところ。採寸してから10分後に裁断し、1時間後に縫い。翌日中縫いしてその1時間後に納品という凄まじい仕事の速さ。これぞナポリ人の“本気”。右上：29歳にしてエレガンスが滲み出ているサルヴァトーレ。左下：ナポリのシャツの手縫いは、美しいミシン縫いがあることより引き立つ。右下：襟の型紙の中に“JIUKI”の文字を発見。これはヴァナコレを愛する三越伊勢丹のバイヤー・山浦勇樹氏の襟型ではないか！イタリア人が“YUKI”をこう表記してしまうのはよくあること（笑）。



あ今朝の清水公きはも居ろラジカル大陸あ

ポーティなシャツをよく着ていることもあり、昨今ではそういったシャツの展開を増やしているところがあります。が、単にスポーティにするのではなく、ラグジュアリーな素材に徹底してこだわっています。シャツでしたらカルロリーヴァ、アルモ、シクテスなど、シャツジャケットでしたらロロ・ピアーナのカシミアやビキューナ混といった具合にです。美しい仕立てのシャツは、最高品質の素材と組み合わせることで、何倍も輝いたエレガンスを放ちます。それは最高の着心地よさをもたらすと同時に、着る人の心も豊かにしれます。ですので、最高のシャツを最高の素材で、というのは私たちのアイデンティティでもあり

ます」

かつてはラグジュアリーブランドのOEMも請け負っていたが、自社ブランドの人気の伸びてきた今は、自社ブランドのみの生産に切り替えた。「ヴァナコレ」は現在、スウェーデンやベオグラード、韓国などでも展開されており、新たにアメリカでの大々的な展開も決まったという。サルヴァトーレの目下の目標は、日本で再び大々的に展開されることだ。日本のマーケットに向けた取り組みは非常にユニークで、日本人と生み出すクリエイティブな仕事が、世界に大きな影響力を与えるものだとわかっているからだ。

ここは8名の職人からなる小さな工房

だ。裁断マシンすらない。そもそもハンドメイドのシャツ作りには、アイロンとミシンがあって素晴らしい職人がいれば事足りるのだが、ここでは職人どうし、技術を教え合ってお互いを高めていこうとする姿が、取材中に何度も見られた。ナポリでは非常に珍しい光景である。

工房内にゲストの宿泊ルームを、上階にB&Bを作るとのことで、工場の真っ最中だった。「一緒に仕事に取り組むパートナーたちへのホスピタリティを大切にしたいんです。情熱を注いで素晴らしいシャツと一緒に創る仲間ですからね。特に日本の素晴らしいクリエイションとの化学反応を楽しんでみたいですね！」 **RI**

商品名 C20465D THE RAKE JAPAN54
 単頁
 左 C2 23年09月

美しいファブリックが さらなるエレガンスを生む

ヴァナコーレの素晴らしさは美しい仕立てと美しいファブリックの
 見事なハーモニーにある。特にサファリジャケット、
 一般的なシャツジャケットを超越したエレガンスを放っている。



スミズーラで選んだサファリジャケットの生地は、
 ウール×カシミア×アルパカ。大きなヘリンボーン
 とネイビーの色合いがとても美しく、大変しっとり
 したタッチ。シャツもクリーンな仕立てだ。ヴァナ
 コーレは注文主の感性によって、最高にクール
 なモデルを生み出せる、高い技術をもっている。
 それを心から楽しむ若きサルヴァトーレもいる。日
 本での展開を心待ちにしている。
 サファリジャケット€000～、シャツ€000～（以
 上スミズーラ価格）both by Vanacore